

<2009—2010年度>

第3回

キャビネット会議

各委員会からの答申書

2010年3月15日（月）

AP西新宿 5階 会議室

ライオンズクラブ国際協会
330-A地区

第 3 回 キャビネット会 議

ガバナー諮 問 事 項 に対する答 申 書

委員会名 政策・会則委員会

委員長名 L 野崎 武

(説明) ライオンズクラブ 3 3 0－A 地区 経理規程改正 (案)

第 1 章 総則 第 7 条 (中間法人)

「現行」

有限責任中間法人 3 3 0－A 地区支援会は、固定資産の保有を目的にして当会の出資のもと設立した法人であり、同中間法人は実質的に当会の一部門として位置づけられる。このため、同中間法人の会計に関しても、当会の経理規程を援用することとし、当会の会計報告を行う際には同中間法人の会計報告も併せて行う必要があることに留意する。

「改正案」

第 7 条を削除する。

第 6 章 第 2 3 条 (改廃)

「現行」

この経理規程の改訂は**年次大会の議**を得て行うものとする。

「改正案」

この経理規程の改訂は**キャビネット会議の議**を得て行うものとする。

(太字部分を上記のとおり改正する)

キャビネットとは

地区ガバナー・キャビネット(District Governor`s Cabinet)を略してこういう。議長としての地区ガバナー、前地区ガバナー、第 1 および第 2 副地区ガバナー、地区名誉顧問会議長、キャビネット幹事、キャビネット会計、リジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソン、地区委員長などをもって構成される。

国際付則 第8条 地区機構 第6項 地区キャビネット

各単一および準地区は、議長としての地区ガバナー、前地区ガバナー、第1および第2副地区ガバナーに加えて、それぞれ単一、暫定、または複合地区会則の規定で定められる手順で選出あるいは任命されたリジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソン、キャビネット幹事およびキャビネット会計または幹事兼会計、その他地区（単一／準／複合）会則および付則によって規定されたクラブ会員をもって地区ガバナーキャビネットを構成する。

国際付則 第8条 地区機構 第7項 キャビネット会議

地区キャビネットの会議は、それぞれの会則で定められる規則に基づいて開かれるこれらの会議では、地区ガバナー、前地区ガバナー、第1および第2副地区ガバナー、地区ガバナーの任期中にリジョン・チェアパーソンの役職が活用された場合には、リジョン・チェアパーソンおよびゾーン・チェアパーソン、キャビネット幹事およびキャビネット会計（または幹事兼会計）に投票権が与えられ、地区（単一／準／複合）会則および付則が規定する他の構成員に投票権を与えることもできる。

複合地区会則 第1章 複合地区 第16条 地区ガバナー・キャビネット

3項

地区ガバナーはキャビネットの会議を主宰する。定例会議は年4回とし、その他必要に応じて開くことができる。これらの会議で地区ガバナー、前地区ガバナー、第1副地区ガバナー、第2副地区ガバナー、地区名誉顧問会議長、キャビネット幹事、キャビネット会計、リジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソン、および地区委員長に投票権が与えられる。

2項

キャビネットは、地区運営方針を決定し、その実行にあたる。

本会則の施行のために必要な規則については、複合地区に関するものはガバナー協議会で、各地区に関するものはキャビネットでこれを制定または改廃することができる。

複合地区会則 第2章 地区 第19条 キャビネット構成員の任務

地区会則委員長は地区ガバナーの指揮のもとに、会員に対して諸会則、諸規制の周知を図り、また、会則に関する諮問事項に答えるとともに、必要な場合には意見の具申を行う。

答申書

ライオンズ国際協会
330-A地区ガバナー
L 岡野 忠生 様

平成22年 月 日
長期計画委員会 答申第一号
長期計画委員会
委員長 曾根原 良仁
副委員長 利根川 昌弘
委員 花岡 光生
委員 戸部 研一
委員 木内 健太
委員 鈴木 廣行

当委員会は、2009年7月28日第一回キャビネット会議に於いて地区ガバナーより三項目にわたる諮問をいただき、委員会を答申まで5回開催し審議を重ねて参りましたが、ようやく答申の運びとなりましたので、ご報告申し上げます。

答申前文

諮問に対する総括的な考え方

地区分割やリジョンの編成替え、または、事務局の問題等は単一クラブからの視線で見ると必要があると考えらるべきである。単一クラブにおいては、一人ひとりのメンバーが活躍できるような土台を作ることが急務であり、各単一クラブが本来的な意味において活性し、メンバー増強が常になされているような状況にできるかどうか330-A地区の将来がかかっていると言っても過言ではないからである。

どんな組織でも50年を過ぎると、時代の流れに次第に対応しにくくなり衰退する運命にあると言える。だからこそ今、ライオンズクラブの未来のために、各クラブの運営方針、奉仕活動の状況、活動の独自性、共通性を調査研究しなければならない。また、キャビネット運営と単一クラブの乖離についても併せ調査する必要がある。更に、少数クラブの増強・活性化・高齢化対策、なぜ新入会員の供給源が枯渇したのかという問題を調査し、対策を検討するようお願いすることを加えて答申の前文と致します。

尚、「前期複合地区年次大会の懸案・検証・準地区としての方向・答申」については複合地区ガバナー協議会議長が中心となって解除された旨岡野ガバナーより報告されたので、答申から削除したことを付記致します。

答申

諮問 第1号

キャビネット運営について、将来的な問題予想(事務局・地区分割等)についての答申

過去の問題を検証すると、問題は事柄そのものよりも事前の説明不足が一番の原因ではないだろうか。つまり、多くのメンバーが了解しないまま事が進んでしまっており、それは、各クラブでの役職者からの十分な伝達が行われていないこと、役職者自体の理解不足によるもの、あるいは各クラブでの十分な審議、討議が行われていないことが原因と推察される。

●キャビネット事務局の問題

キャビネット事務局は固定化と独立性を持ち、集团的組織を目指すべきである。できればライオンズの実務に精通した事務局長を選任、もしくは育成する必要がある。事務局員の雇用についても、安心して働くことができる給与と雇用契約が肝要である。

●地区分割の問題

地区分割については最近の問題ではなく、ここ数年の議論となっているが、キャビネット・各クラブ会長・幹事が毎年変わるなか、十分な議論が継続されていない。そのため本質的な議論となっていない。どちらが正しいかの選択ではなく、どうしてそうなのか、将来どうあるべきなのか、ライオンズクラブそのものの組織論を中心とした明確な議論を展開すべきである。

●キャビネット運営の将来的問題

キャビネット運営を考えると、上記の「ガバナー、キャビネットとしてのアカウントビリティ」は重要であるが、その責任を果たすためにはリジョンとゾーンの運営をより強化すべきである。キャビネット、リジョンチェアパーソン、ゾーンチェアパーソンともにより明確な問題意識と目標を策定しなければならない。具体的には、「現行のままでは各クラブ、各メンバーには伝わらない」という危機感、前提に立って、リジョン・ゾーンから各クラブへ、各クラブから各メンバーへ問題やビジョンが確実に伝達されるように組織を改革すべきである。

具体的提言

キャビネットのビジョンを明確化し、ゾーンチェアパーソンの選任については特に慎重を期し、単一クラブの活性化のためにまずはゾーン単位での活性化を目標とする。

●地区ガバナーの選挙における問題

ここ数年のガバナー選挙の誹謗中傷合戦には目に余るものがある。これを未然に防ぐ有効な方法は簡単には見つからず、またその責任と原因を追及しても何の意味もない。しかしながら、この問題がライオンズクラブに与えている影響は実は非常に大きく、メンバーの減少や士気の低下に直接つながっていると言っても過言ではない。この過去の事実を直視し深い反省にたつて、各メンバーへ「公正、中立、誠実、ライオニズムなるものは何か」をキャビネットが常に発信すべきである。

諮問 第2号

委員会仕分け継続(委員会数・委員数)事務局運営全般についての方向・答申

各委員会が十分な諮問、討議の場となっているか、マンネリ化していないか、有名無実なものとなっていないかを検証すべきである。

単年度のなかでの改革は時間的に難しいものと推察するが、「委員会仕分け委員会」「事前合同委員会」等の事前の委員会を次期キャビネット内に作り、事前の協議をすべきである。その議論のなかで委員会数・委員数もおのずと決定されるものではないか。

昨今の喫緊の問題(メンバー減少や若年層のライオンズ離れなどの問題)にスピード感をもった対応をするには、「前年通り」という習慣は改めるべきである。

また、メンバー減少で苦しむ各クラブは実際には委員会どころではない。そのようなクラブの対策を急ぐべきである。リジョン単位とゾーン単位での活動を通して、単一クラブに対してキャビネットは今まで以上に関心を注ぎ、各クラブをより尊重し、性急な合併論ではなくまた古参も新人もなく、各クラブのライオンズクラブとしての誇りあるビジョンの策定を急がせるべきである。

以上 答申とする

第 3 回 キャビネット会 議

ガバナー諮問事項に対する答申書

委員会名 会員委員会

委員長名 L 木下 満

(説明)〈家族会員の権利と資格について〉

ライオンズ必携のクラブ会則及び付則

第 1 条会員 1 項会員の種類

(1) 正会員の規定より抜粋

家族会員プログラムの基準に規定されたとおり

有資格者の家族員は正会員であり正会員としてすべての権利を有するものとする。

(家族会員プログラム及び家族会費に関する規定)

*ライオンズクラブ国際協会役員必携 付表 42 14 項 国際理事会方針書より

有資格者としての定義

イ.家族会員とは、同一世帯にすむ成年者でなければならない

親・子供・配偶者・企業後継者・叔父・叔母・従兄弟・祖父母・婚姻による親戚
関係・養子縁組による家族会員及びその他の法的扶養家族。

ロ.クラブ理事会の承認を受けなければならない

家族会員プログラムは、既にライオンズの会員となっている家族が所属するクラブへの入会を希望すれば誰でも入会が出来る。又、新しい会員として入会する人の家族が家族会員となるには、招請を受けクラブの理事会によって承認されなければならない。

ハ.会費の支払いをしなければならない

一人目の家族員つまり従来のメンバーは、規定の入会費ならびに国際会費（その他クラブ地区または、複合地区が請求する一切の会費も対象）を支払う。

二人目以降（最高四人まで）の家族員に対しては、国際会費の半額が義務づけられ入会費は全額免除される。（地区、複合地区費の会費も半額となる）

ニ. クラブ幹事は、家族会員となる資格条件を満たしていることを家族から提示される証拠書類を確認するとともに、国際協会に家族証明用書式を月例会員報告書提出時に同時に提出しなければならない。

家族会員の権利とは

家族会員は、クラブのメンバーでの決議に投票する権利をもちまた地区年次大会や国際大会の代議員になることもできクラブ及び地区、国際レベルの役員にもなれる。

家族会員としての有資格者と認められる為には、少なくとも上記イ・ロ・ハ・ニの定義を遵守しなければ正会員としての権利が認められないため、代議員として算定基礎に入れることは出来ない。

家族会員プログラム及び家族会費に関する規定 14 項

ライオンズクラブ国際協会により、「家族会員プログラム」を不正に申請、もしくは代議員数の増加を目的に「家族会員プログラム」を不正に利用したと判断されたクラブは、かかる不正行為が発生したとされる時点に遡って、当該クラブの全家族会員の正規の会費を全額支払わなければならない場合がある。さらに、ライオンズクラブ国際協会は、そのようなクラブに対し、かかる違反後 2 年間にわたり「家族会員プログラム」の下に家族会員を追加することを禁じる権利を有するものとする。

第 3 回 キャビネット会 議

ガバナー諮問事項に対する答申書

委員会名 指導力育成委員会

委員長名 L 藤井 清一

答申事項

1. リジョン毎 クラブ横断若手チーム育成施策提案

ガバナーよりリジョン・チェアパーソンに委ねられたが、現状まとめきれず
来期への再検討を希望いたします。

2. リーダーシップ研修会企画実施要綱作成

3月26日～27日の2日間に亘り、ライオンズリーダーシップ研究会を
開催することとなった。

来期以降も継続開催を希望いたします。

3. 合同セミナーの企画・検討（オープン方式・活性クラブ紹介）

年次大会に於いて各委員会活動の発表の場を設けていたたくことを要望
いたします。

E-mail: cab@lions330-a.org / Fax : 03-5330-3370

第 3 回 キャビネット会 議

ガバナー 諮 問 事 項 に対する 答 申 書

委員会名	広報委員会
委員長名	L 近藤 正彦

答申事項 [PR・会報担当]

1. 330-A 地区共通 LC 広報・会員入会パンフレットの作成については、以下のような検討事項：(1) 予算計上の問題(今期の広報委員会の予算は、地区ニュースを発行するために予算計上されており、別途の予算計上の検討が必要となる場合があります)(2) パンプの内容の協議(会員入会パンフは会員増強用リクルートパンフとしての用途も考えられ、その内容は会員委員会や指導力育成委員会などとも協議の必要があります)があり、引き続き検討を重ねています。
2. 地区ニュース「The Lions News」は下記の通り発行しました。
2009 年 8 月発行「The Lions News Express」ではガバナー運営基本方針ならびにガバナーズテーマ、ガバナーズスローガンなどの告知、年間主要行事予定などを公表しました。
2009 年 10 月発行「The Lions News Autumn」では国際大会レポート、第 1 回キャビネット会議レポート、地区役員・クラブ役員のためのミニ IT 講座、奉仕の日活動レポート、地区委員会活動レポート(広報委員会)、ライオンカード等と共に引き続き年間主要行事の日程を告知しました。
2009 年 11 月発行「The Lions news Express」Let's OSEAL として OSEAL の案内と OSEAL に関する情報提供を行いました
2010 年 1 月発行「The Lions News New Year」では、ガバナーの新年挨拶のほか岡野ガバナーのクラブ訪問の軌跡、OSEAL 特集、委員会活動レポートとして環境委員会委員長インタビュー、2009 年クラブアクティビティ、地区役員・クラブ役員のためのミニ IT 講座、のほか 330-A 地区第 56 回年次大会の案内も告知しました。
今後の予定
2010 年 3 月発行予定「The Lions News Spring」委員会活動レポートなど
2010 年 5 月発行予定「The Lions News for the future」(仮称)
3. 地区ニュースの送付方法につきましては、今期からライオン誌日本語版「L I O N」と共に ServannA の情報に基づき、地区内の各メンバーならびに各クラブ事務局宛てに送付しています。

答申事項 [IT・情報担当]

1. クラブ活性情報の取材収集・公開は、各クラブからの投稿がほぼ毎週ありますので、その都度地区ホームページを活動予定 31 件、クラブ情報 2 件、地区委員会の活動 1 件、ガバナー公式例会訪問 9 件、リジョン・ゾーンの合同アクティビティ 13 件、各クラブのアクティビティ 130 件、平成 22 年 3 月 12 日現在クラブ合計 186 件もの情報を公開中です。ぜひとも各クラブでご確認下さい
2. その他地区ホームページでは、キャビネット情報のほか地区委員会のセミナー情報や国際協会・イベント、岡野ガバナー地区内クラブ訪問の軌跡などを紹介しています。
3. サバナン運用セミナーを地区役員向けや地区委員会に実施したほか、eMMR のセミナーも実施しました。

PR会報担当副委員長 柴田 誠

330－A地区ガバナー

岡野 忠生 様

第一副地区ガバナー

河合 悦子 様

答 申 書

ガバナーの諮問事項により 下記の通り答申します

330－A地区「環境憲章」を地区内クラブに周知徹底させ、具体的奉仕実施の為

『330－A地区は、地球環境保全・温暖化防止アクティビティについて、長期継続重点奉仕事業とする』が必要であると答申いたします。

◎ 上記『 』を 第3回キャビネット会議及び今期56回地区年次大会

に承認を得るよう委員会より議案・案を後日提出致しますので地区ガバナー、

副地区ガバナー 共同提案にて、年次大会議案として提出願います。

環 境 委 員 会

委員長 L, 風間 昭

第3回キャビネット会議 ガバナー 諮問事項に対する答申書

委員会名 国際委員会

委員長名 L. 渡邊 晃

答申事項

<国際大会担当関連> 担当副委員長 L.佐藤外次

- ① 第1回2009年8月5日～第13回2009年11月17日迄、合計13回の委員会活動を行い、タイ・パタヤOSEALフォーラム参加推進に向けて、一応の成果を収めた形となり、次のオーストラリア・シドニー国際大会に弾みがつき、委員会活動も更に活発な行動をと、現在進行中です。
- ② 代議員登録推進・議決権行使推進（投票）については、2009年12月4日～現在まで7回の委員会を開催し、同時に各クラブへの様々な案内を行い、啓蒙活動に努めております。特に今回からは代議員登録の仕方が変更されており、各クラブ会長とは、既に周知徹底しております。

<国際協調担当関連> 担当副委員長 L.畦地秀明

- ① 国際理事推進に関しましては、330-A地区より山浦国際理事誕生となる大会の為、支援委員会及び複合地区とも連絡を密にとり、連携を強化しているところです。
- ② モンゴル支援に関しましては、複合地区に委ねており担当委員は、国際大会への協力を主にお願ひしおります。

<LCIF担当関連> 担当副委員長 L.瀧川清人

副委員長を中心に、複合地区との活動及協力を推進していおります。

各クラブ活動（LCIF関連のみ）への参加・協力は委員の方にお願ひし、報告書を提出して戴いております。

※ 国際大会参加委員は、基より国際協調担当委員、LCIF担当委員の3委員会は、主に、タイ・パタヤOSEALフォーラム、オーストラリア国際大会参加推進に向け、一致団結し委員会活動を行っております。

第3回キャビネット会議

ガバナー諮問事項に対する答申書

委員会名 青少年育成委員会(ライオンズクエスト)

委員長名 瀧澤 賢司

答申事項

今期青少年育成委員会の中で当事業を担当したが、本件の運営主体が外部組織である上に地区委員会の活動目的が明確でないため委員会の開催、活動が本日迄ほとんど実施されていない。

以下にその要因を列記し検証することとし今後の当事業の取り組みの一助となれどと考える。

組織・運用・実態検証

本件の活動主体は特定非営利活動法人青少年育成支援フォーラム（JIYD）にあり主たる業務は学校におけるワークショップの開催にある。

ワークショップの開催にあたっては全て JIYD がその運営にあたるため地区委員会が携わることはない。

本事業におけるライオンズクラブの役割は JIYD への金銭支援と事業普及のための PR 活動の 2 点にシぼられる。

1) 現在 LCIF より助成交付金を受けている

助成交付金申請は準地区単独での申請の場合は上限 2 万 5 千ドル、二準地区合同申請の場合の上限は 10 万ドルとなる。

現在 A、C 地区合同で申請した 10 万ドルが承認されており、その利用期限が本年 12 月となっている。

①交付金申請者は申請時の地区ガバナー（現第一副地区ガバナー予定者）

申請者は三年間の交付金に対して 25%（10 万ドルの場合 2 万 5 千ドル）以上の原資を確約する必要が有る。

②交付金管理運営者は事業開始時の地区ガバナー（現第二副地区ガバナー予定者）

管理運営者は三年間の責務を負う。

③申請に際し次の書類を添付する事と成る。

a.申請承認のキャビネット会議による決議議事録。

b.25%原資確保の証明。

c.三年間の事業計画書。

d.三年間の事業予算表。

④助成金交付が決定した場合は、事業に掛かった費用の領収書を LCIF に送り、総

費用の 75%が交付金預金管理者の口座に振り込まれる、立替方式で有る。

1) A 地区においてワークショップを開催するためには運営資金の確保が前提条件となるため運営費の計上が必要となる。

従って運営資金を持たない当委員会としてはワークショップ開催は不可能。

地区内で行うとすれば単一クラブのアクティビティとして取り上げることしか出来ない。

1) 本事業の推進については複合地区内でも格差が大きく C 地区は運営資金を予算化し強力に推し進めているが A、B 地区においては活動実体は非常に乏しい。

1) 本年 12 月で期限が来る LCIF の助成交付金の申請についても、JIYD、ABC 各地区の第一、第二副地区ガバナー、現在の交付金管理関係者が会して打ち合せの予定があるとの事なのでその結論を待ちたい。

1) 列記した以外にも当事業の活動には多くの制約があり委員会としての活動が可能かどうかその設置も含め研究検討する要有りと思われる。

第3回キャビネット会議

ガバナー諮問事項に対する答申書

委員会名 青少年育成委員会 (YE・レオ育成)

委員長名 瀧澤 賢司

答申事項

1.派遣学生追跡アンケート調査について

本件については現在調査中であり第4回キャビネット会議にて報告いたしたい。

2.組織・運用・実態検証について

本事業は長い歴史と実績を積み重ねて来たものであるが、時間の経過とともに取り巻く環境も変化して来ている。

海外旅行が大衆化し海外への渡航が容易になったことや、メンバーの減少が背景にあるものと思われるが、近年、スポンサークラブの確保が難しく派遣、受け入れ（家庭）共に減少傾向にあり、課題として顕著化しつつある。

こうした現況下、YE廃止論も耳にするが本事業は国際プログラムであり全日本レベルで派遣、受け入れの枠組みが協議決定されているため当地区（330-A地区）の独断で本事業を廃止することは現実的でない。

しかしながら先に述べたような課題解決に向け委員会の組織・運用の再検討、再構築が必要かつ急務と思われる。

派遣・受け入れに関して複合地区との密接な連携や必要書類の作成等本事業に精通した委員（メンバー）の存在が不可欠であり継続性のある委員会（例えば前期委員の一部を次期委員会に留任させる）の構築が望まれる。

またホスト家庭の減少に対する対策が急がれるところである。

本事業の特色として必要不可欠な経費（来日生に対するキャンプ費用、派遣生へのオリエンテーション費用等々）がかかるため、メンバー1人当たり1,000円以上の協賛金の拠出が承認されている。

一方、協賛金拠出に賛同いただけないメンバー（クラブ）が相当数あることも検討課題として挙げられる。

青少年の健全育成という目的達成のためには全メンバー（クラブ）の協力を賜り

たいところであるが協賛いただけない要因の検証が必要と思われる。

要因の一つに使途の開示不足があるものと思われる。

現在、協賛金の管理はキャビネットが行っており使途に対するチェックは機能している。

今後より多くのメンバー（クラブ）に協賛いただくために詳細な使途の開示が不可欠と思われる。

そのことが協賛いただいたメンバー（クラブ）への義務でもあり結果として信頼度が増し本事業への理解も高まるものと推察する。

第 3 回 キャビネット会 議

ガバナー諮問事項に対する答申書

委員会名 福祉委員会

委員長名 戸田一郎

福祉委員会は ①障害者老人福祉 ②献血骨髓移植推進 ③献眼献腎・癌撲滅の三部門の委員会構成となっている。岡野ガバナーは本年度の運営基本方針の中で川端康成の言葉を引用し奉仕のとき相手の心の中まで入り込み相手を思いやる心を持ってこれに臨む事が大切であると述べている。福祉委員会はこの運営基本方針に則り心に訴える奉仕活動、劇場型の奉仕活動を委員会が率先して各クラブに示し指導誘導して行く方針を固めた。

① 障害者老人福祉担当委員会（小堀光由副委員長以下 4 名）

第 11 回東京都障害者スポーツ大会支援が第 36 回年次大会記念事業として決定されており支援実施に向けて 1 月 12 日に主催団体である公益法人東京都障害者スポーツ協会側とガバナー同席の上で具体的な話し合いを持った。

本年も各クラブに参加を呼び掛ける事にし、RC、ZC 各位には特段の協力要請を願うことにした。クラブの参加意識については温度差が見られるがキャビネットから提供された昨年の大会風景を映したプロモーションビデオ等を使用して宣伝を為し参加を促す事にした。

また、大会は 2 日亙り行われるので平均的な動員を如何に図るか検討が残された。

② 献血骨髓移植推進担当委員会（佐々木利和副委員長以下 4 名）

献血奉仕活動については各クラブが従前より活発な活動を実施しており、ことさらに指示や指導に及ぶ事は無く、骨髓移植については移植時に於ける不安などについて認識不足による誤解などがあり、これらを解消するための啓蒙が必要であることまた、ドナーやレシピエントに対する移植手術の経済的な負担の軽減を図ること等検討事項が残されている。

③ 眼献腎癌撲滅担当委員会（山口勝一副委員長以下 4 名）

昨年 10 月に行われた東京麻布ライオンズクラブが協賛している東京歯科大学市川総合病院アイバンクが行った「ドナーファミリーの集い」に委員会として参加した。献眼登録と角膜移植が結びつく様にするには如何すればよいのか研究の余地が残された。今後、複合地区委員会と連携して献眼登録の意思を周囲に明確にしておく

具体的な方法を探ることにしている。

癌撲滅については昨年 7 R 1 Z のガバナー公式訪問合同例会に財団法人がんの子供を守る会ソーシャルワーカー斎藤秀子さんを招いて「小児癌」について患者と病院の現状、患者の家族の現状等についての話を伺った。

また、献眼関連として昨年 9 月 24 日財団法人アイメイト協会を視察 10 月 25 日東京城東 LC 11 月 3 日東京日本橋 LC が行った盲導犬募金活動に立ち合った。

第 3 回 キャビネット会 議

ガバナー諮問事項に対する答 申 書

委員会名 第 5 6 回年次大会委員会

委員長名 L 飯田 金廣

第 56 回年次大会活性化に関するアンケート報告

アンケートの目的

「第 56 回年次大会」をライオンズクラブの原点を見つめ直し、ライオンズクラブに相応しい年次大会を企画する目的で、会員の皆様のご意見や考えをお聞きするために、ガバナーの諮問事項に基づいてアンケートを実施した。

今期、岡野地区ガバナーは所信表明の中で、この 1 年間を「原点回帰の年」、「足踏みの一年」と位置づけられた。

年次大会委員会は「第 56 回年次大会」を 1 年間の活動の成果を示す集大成の場と位置づけ、ライオンズクラブの原点を見つめ直し、ライオンズクラブ創設の意義を確認できるような大会とし、さらに、一步一步、歩み出した新しい 330-A 地区の、明るい未来を感じ取ることが出来るような年次大会を目指している。

アンケートの結果を基に会員の皆様のご意見や気持ちをなるべく反映した「大会運営企画」を作成したいと考えている。アンケートの結果を下記のとおりご報告します。

年次大会アンケートまとめ

(回答率 48%) (() 内数字は%)

1. 選挙会および分科会

選挙会は時間、経費の無駄、出席者数の減少を考えて、記念大会と同日開催とする。

(94) [選挙会と年次大会とを 2 日間に分ける (6)]

分科会によってはシンポジウムでも良い。(47) [従来の方法でよい (31)]

分科会は委員会ごとに分かれる。(44) [関連委員会でまとまる。(44)]

分科会の内容は 1 年間の委員会活動について反省も含めて報告し、それについての有意義な討論をする。(59) [来期への課題を整理し、次期委員会への引継ぎ事項をまとめる。(38)]

2. 大会式典

大会式典で記念講演会を行なう。(78) [講演会必要ない (9) コンサート必要ない (34)]

記念講演の講師はボランティア関係者 (59) とし、講演時間は 45 分とする。(44) [30 分程度とする (34)] コンサートは式典で行なう (25) [晩餐会にて行なう。(38)]

3. アワード表彰

アワード表彰は真に価値あるものだけに限り、数を少なくして、贈呈式は大会式典において行なう。(50) [別会場にて行なう (31)] 表彰は厳粛におこなう (41) [賑やかに行なう (34)] 表彰は限定代表者に贈呈する。(22) [式典で映像のみとする (13)] 高齢者表彰は大会式典において、これまでの活躍に敬意を表し、受賞者に直接贈呈する。(38) [式典で代表者に贈呈する (38)]

4. 晩餐会

晩餐会でアトラクションを行なう。(59) ラッキーカードは行わない。必要ない (66) アトラクションとしてコンサートを行う。(66) コンサートの演奏者は、小中学生などの若者などアマチュア音楽グループを第 1 候補とする。(34) [第 2 候補としてプロ音楽家 (31)、障害者奏者 (31) を検討する。] 音楽はポピュラー (25) とする。[叙情歌・童謡とする (22)] コンサートは演奏者に対する礼儀を考え、飲食開始前に 30 分間程度とする。(59)

5. 登録料

登録料は現在の世の中の状況を鑑み、華やかにならず、地味で質素な大会を目指し、なるべく安くする。

代議員登録料： 8,000 円 (53) [10,000 円 (41)]

式典のみ登録料： 5,000 円 (59) [4,000 円 (34)]

晩餐会登録料： 10,000 円 (56) [12,000 円 (38)]

高齢者アワード受賞者の登録料：「ライオンズは平等」の精神から招待とせず、本人の出席する会の登録料とする。(50) [招待する (31)]

6. 委員会活動

年次大会を各委員会活動の報告や啓蒙の場所として活用する。(53)

[活動報告は必要ない (22) どちらでも良い (19)]

当日の活動は、時間、労力などを考えると無い方が良い。(44) [あった方が良い (38)]

7. その他、会員からの要望、意見、提案

(1) 要 望：

- ・各部会にベテランを軸にして、なるべく若手のメンバー、新入会員等を入れて欲しい。
- ・十分な準備のもと、合理的な運営をしていただきたい。
- ・華美でなく質素に。奉仕団体らしい年次大会にしてもらいたい。例えばモンゴル国、年次総会是非常に質素であるが、メンバーの皆全員が笑顔である。この大不況期において、時代錯誤のことを行なえば、退会者が増えることは目に見えており、シンプル、質素な運営を望みたい。
- ・岡野ガバナーの唱えてきた「原点回帰の年」「足踏みの一年」の集大成として、可能な限り質素に思いやりのある年次大会を心がけて頂きたい。“Simple is Best”です。
- ・有意義な1日になるようよろしくお願いします。
- ・時間の短縮化を求めます。
- ・年一度の年次大会と周年行事はその年のガバナーの顔、クラブの顔や人格を感じさせるような特色が感じられるものであると良い。毎年基本を変えずにガバナーの色の違いがあって当然のこと。ただ、進行上メリハリをつけていかないと、メンバーの緊張感は保てないと思う。この行事以外はファミリーで親しみやすく、アットホームに又、お祭り騒ぎなどカジュアルにと心がけたいが、年間行事の中で、年次大会だけは厳粛に、皇室の皆様と共にするに相応しく計画して欲しい。
- ・年次大会費用を各メンバーから集めているのだから、その範囲での開催で良いのではないだろうか？ 見栄や儀式は必要ない。公立体育館などでも良い。
- ・タイムスケジュールを密にして、時間をうまく使って下さい。登壇した方々の紹介の省略。挨拶の時間を短く。
- ・最後まで（晩餐会は除く）メンバーが帰らずに参加したくなるような大会にして欲しい。初めて参加するメンバーが満足感の有る大会であってほしい。
- ・昨年度は恒例の常陸宮両殿下が欠席したこと、非常に残念であります。是非今年度はご出席されることを望みます。
- ・キャビネットの1年間、そしてその後の活動を一般会員に知らせる大会にして欲しい。
- ・なるべく多くのメンバーが参加する大会になるように。各部会員には入会5年以内のメンバーが参加し、ライオンズの活動の様子を肌で感じ取り、次代のライオンズを背負う気持ちを持ってもらいたい。

(2) 意 見：・重要な大会決議は事前の各クラブの意見をもって決議とすべきである。

(3) 提 案：

- ・ライオンズも世界的に見て、昔日の華やかさを競う時代は過ぎた。現代に相応しい一般市民感覚で地味に行なうべき。又、式典などにもメンバー以外の一般の人たちにも呼びかけて、PRするのも良いのではないか。従来の秘密結社的な会から脱皮する時がきたと思う。大幅な良い改革を思い切り行なって欲しい。

(4) その他：

- ・年次大会は活動報告を主体にすることにより意識の高揚が図れる。
- ・アンケートに関して、敬意を申し上げます。良い企画であると思います。
- ・今期、大会委員会に相応しい年次大会の大成を期待します。

ライオンズクラブ国際協会

330-A 地区 ガバナー L 岡野 忠生 殿

2010 年 3 月 15 日

ライオンズクラブ国際協会 330-A 地区

組織連携特別委員会 委員長 L 家喜凱雄

2009～2010 年度 330-A 地区 ガバナー委員会 諮問答申

当組織連携特別委員会は下記により構成し、2009 年 7 月より第一火曜日に委員会をキャビネット会議室で開き審議し委員会報告書を提出した。

委員長	L 家喜 凱雄 (東京杉並東)	委員	L 吉川 和男 (東京セントポール)
副委員長	L 吉崎 光男 (東京葵)	委員	L 藤原 高雄 (東京駿河台)
委員	L 大家 一光 (東京白門)	委員	L 出口 有公 (東京成城)

1、一般社団法人 330-A 地区支援会

預託金返還監視 330-A 地区キャビネットより

預託金 2,009 年 6 月 19 日 42,402,222 円

個人預託金返還 2009 年 6 月 23 日～8 月 27 日 759 人 41,060,000 円

個人預託金返還 2009 年 9 月 7 日～9 月 24 日 17 人 580,000 円

預託金残高 762,222 円

(個人預託金未返還リスト 31 名別紙資料)

人的物的連携に関する規定検討、平成 22 年度理事会で検討したい。

2、愛の泉緊急災害基金運用監視

ハイチ大地震義援金 100 万円 330MD より要請 L 岡野ガバナー
の判断対応を 2010 年 2 月 2 日委員会で承認。

3、ライオンズ・カード検討

カード推進	広報委員会協力で 330-A 地区 the LionsNews2,009 秋号に募集広報 ライオン誌日本語版発行 LION2 月号 に A4 サイズ募集広報を 同封 A 地区全会員に配布し現在申し込み受け付け中 3 月 5 日 39 名
分配検証	2010 年 3 月末締めで VISA カードよりのポイント報告をもとに委員 会で検討予定。
改善検討	ライオンズカードシステム維持とカード利用と内容について、三井 住友 VISA カードとの再検討の必要有り クラブ会費の納入など、そ のためには会員の増加が必要である、当面 300 名増加募集中

以上

第3回キャビネット会議

ガバナー諮問に対する答申書

エクステンション委員会
委員長 L 石井祐治

1. 新クラブ設立目標2つについて

☆ 現在計画が1件進行中

* 当初シニアクラブを念頭に計画されていましたが、現在、一般的なライオンズクラブのエクステンションとして再考中のようです。

今期中結成・チャーターナイトを目標に調整されております。

2. 空白域開拓の立案について

☆ 江東地区・お台場地区等、急速に開発された地域に新たなエクステンションが可能とおもわれる。

☆ 地域にとらわれない、様々なメンバー構成や特定目的のクラブであれば、どのような名称のクラブもエクステンションの可能性があると思われる。

* 例として東京剣道 LC（剣道指導）や東京サンシャイン LC（少年野球指導）

* 例として東京山手 LC・東京シティー LC・東京大江戸 LC 等

3. アンケート調査について

☆ 現在検討中 将来のエクステンションに繋げる様な情報を探る事が必要だと思われる。